



企業訪問

(株)ケー・エス・ディー

代表取締役 小林達夫 様

<http://www.ksd-japan.com>

マナーの基本は挨拶ですが、挨拶が経営の主軸になっている大阪の企業を訪ねてきました。トップが本気で挨拶に取り組むと企業こんなに元気になります。



「考え方続ける」を徹底する

大阪のITサービス会社 (株)ケー・エス・ディー(以下、KSD)は今年40周年を迎える。

「あいさつ一番活動」などユニークな取り組みでマスコミにもよく登場する大阪の元気印の中小企業だ。実はそのKSDにも社内の空気が沈みがちな時期があった。今から16年ほど前、そんな社内を少しでも明るくしようと考えたのが挨拶活動だという。

まず「鐘太鼓運動」から紹介しよう。社員が外出するときには太鼓をドンドンとたたき、帰社したときには鐘をチリンチリンと鳴らす。頭ごなしに命令されるのとは違い、鐘や太鼓の音は五感に無意識のうちに働きかけてくる。社員はそれを合図に挨拶するのだ。

16年も継続させるのは並大抵ではない。決めたことを三日坊主で終わらせないために、「しあわせ考え方続ける」ことを徹底している。大きな方向性はトップダウンで決めて、実際のアイデアや工夫は社員がチームになって考えている。

<http://www.ksd-japan.com/aks0041/index.html>

「あいさつ一番活動」のPDCAサイクル

“鐘太鼓運動、クリーン運動、明るい商品名、明るい会”は「あいさつ一番活動」を始めたときに考えた活動内容。今でもそれは続いている。継続させるために参考にしたのが、工場などのISO活動だ。活動の最初のころは頑張るが、しばらくすると飽きてマンネリ化がおこる。そこで状況を改善するために「おもしろくてシンプル」なしくみを社員と一緒に考えた。やがてやり続けるうちに、頭で考えなくてもできるようになる段階までくる。そこまでくれば、また次のステップへとPDCAサイクルをまわしていくばいいのだ。

この活動でKSDは「明るいシステム俱楽部」が認証する『明るい認証企業』第一号になった。明るく元気なKSDの代名詞にユニークな名前の商品名がある。「熱血、健康一番、診感染、よーし、あいさつ野郎」等。すべて社員のアイデアから出たものだが、IT企業のイメージとのギャップから営業先では会話のきっかけになっているらしい。KSDではあえてネーミングとはいわず「名立(なだて)」という。名立てとは、評判が立つようという意味があるそうだ。

明るい認証「AKS0041」 <http://www.akarui.cc/asd1.html>

お取引き先でも挨拶・掃除

「言われたことはできないのに、見たことはしたくなる」のが人の特性。KSDでは、ITサービスを提供している受託先でもあいさつ一番活動を徹底している。決められたルートを歩いて挨拶をし、机まわりの掃除や毎週金曜日には共有スペースまで10分間、掃除するのだという。続けているうちに、受託先の社員の方々も触発されるという。ところで、本当に出来ているかどうかのチェックはどうするのだろう。ここでもPDCAのサイクルは見事にまわっている。常駐先の明るい分室長が毎日記録して、毎週提出しているのだという。

AIに仕事がとられる!?

関西の中小企業では何事にも「おもろいやん」は外せない要素。しかしKSDは、会社が推奨する情報システムや管理の資格を競って取得する武装集団でもある。会社の壁には取得者一覧が張り出されており、この「見える化」が社員のやる気に火をつける。

今ちまたでは、AI(人工知能)に代替されて仕事がなくなる人もいるのではと話題だが、小林社長の描く未来は明るく頗もしい。少し前までは人余りの時代だったが、これからは人不足の時代。ITの果たす役割は全然ちがってくるという。例えば海外の研修生が必要なほど人手不足の農業や介護の現場。人がいなくて困っている産業にこそAIやIoTの技術は投入されて国力が維持されるという。だからクビ切りなど必要ないのだ。

情報技術はサービス産業

さて、人材育成で目指していることを聞いた。思いやりのある社員を育てること。仕事上で「立場を変える、リーダーになる」そんな経験を通して、意見はひとつではないこと、物の見かたは多面的であることを学んでほしいという。技術的な裏付けが必要な最先端の世界だが、技術の向こう側にあるアナログの「人間力」を大切にしている。「使う人の感動」を想像してほしいという話に共感した。

40周年を迎えてなお清らかに

今年は創業40周年。意外といっては失礼にあたるが、伊勢神宮の式年遷宮に例えた話をしてくださった。20年に一度、神殿を移すことで常に新しいエネルギーを生んでいる「常若(とこわか)」の伊勢神宮。それをKSDでも社員に置き換えて、役割や立場を変えながら、40年にしてますます新しく清らかであることを目指すという。

小林社長が考えるつぶれない会社の条件は「挨拶と掃除」だ。その挨拶が強い企業体質を生む原動力になっている。

(文責 石井)



インタビューを終えて

- ★挨拶も掃除も心より先に体が動く
- ★挨拶はコミュニケーションの要(かなめ) すべてに通じる
- ★トップの本気度によって、結果がかわる



KSD 社内の風景